

いきいき 行田人

将来も家族そろって少林寺拳法を

永野穂波さん(17歳)・大地さん(13歳)(小見)

アクション俳優のブルース・リーが好きで、映画などを家でよく見ると話す永野穂波さん・大地さん。この姉弟が少林寺拳法を始めたのは7年前。「入会するつもりで見学にいき、小学生から60歳以上の人たちが一堂に練習する風景を見て、わくわくした」と弟の大地さんは6歳のときに母の勧めを受けて道場に通うようになり、その後、そんな大地さんの楽しそうに道場へ通う姿を見て、姉の穂波さんも「自分もやってみたい」と道着に袖を通したそうです。そして現在は父親も一緒に、3人で週3回2時間半の稽古へ出かけています。

少林寺拳法の大会は、単に勝敗を決するものではなく、組で防衛・反撃の技法の正確さや表現力を披露し競い合うもの。だから同じ道場にいる人たちはみんな、目標でありライバ



ルであり友達。そんな環境の中で切磋琢磨しながら稽古に励んだ一人は、白帯から黄・緑・茶帯と昇級しながら実力を身に付け、今では黒帯の有段者となりました。

家では少林寺拳法について互いに話すことはあまりないとのことですが、道場の先生から指示を受け、昨秋の大会に組演武で出場しました。本人たちは意識しなかったそうですが、「きょうだい」だからそのびったりと息の合った演武を披露し、堂々1位を獲得。会場で見えていた両親も、これには感無量だったと目を細めて話しました。

今回、穂波さんは小学生から大人までが出場できる埼玉県大会で優勝し3度目の全国大会へ。大地さんも同大会で2位となり全国中学生少林寺拳法大会に初出場を決めました。穂波さんは「前2回で全国のを肌で感じた。その経験を生かし、上手な人のよいところを学び、入賞に絡む結果を残したい」と話し、大地さんも「今まで支えてくれた人たちへの感謝を忘れず、良い成績をとれるように頑張りたい」と抱負を語りました。また、「いつかは結婚して子どもができたとき、今のようには家族みんなで少林寺拳法をやっていたい」と将来の夢を語る穂波さん。目標を持って果敢に挑戦し、より上位の段位の取得を目指す二人の向上心に終わりはありません。

私の作品

◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日までにはがき・封書
で広報広聴課へご応募ください。

俳句

本丸 諸貫 節子

競い合うのぼつこの城の若葉かな

富士見町 おおば水村

友逝くは米寿の間近麦の秋

谷郷 小林 英与

草萌えて利根の河原に長い帯

持田 太田 保夫

芍薬の雲の重さに垂れて咲く

持田 岡本千寿子

田植えるスポーツカーがそばにあり

荒木 増田 時枝

蜘蛛の子が風にまかせて遠出する

須加 飯塚よね子

寛ぎの真ん中に置く柏餅

須加 須加 照代

雨上がり命燃え出す若葉かな

下須戸 田島 星州

薫風を一人占めする墳九基

埼玉 松岡 孝子

緑道の若葉を渡る風に居て

菅里山町 斉藤 閑風

又一つ新たな仕事水を打つ

西新町 小宮 武

雨あがり新緑の木々生き生きと

城南 関口 操

初夏の旅五連アーチの錦帯橋

中里 鯨 美智子

バラの花おぶろに浮べ夢気分

持田 丸山 麟一

枯れ色になるは運命が濃あじさい

(木島 斗川 監修)

『聖観音』(俳画)

加村はな(本丸)

